



保育が見える おたよりづくり ガイド

よりよい情報発信の
ために
(便利なおたよりカット集&
フォーマットCD-ROM付)

大豆生田啓友 著
赤ちゃんとママ社
1,800円(+税)

保育者のレビュー 「時代に合わせて 情報の形も 変わらないと」

書籍紹介対談者

清水芽々 (埼玉県保育士・勤務歴27年)
袖山 勝 (東京都保育士・勤務歴4年)

清水 ●うちの園では、「日々連絡帳や写真掲示で伝えているのに、おたよりでまた伝えるのは大変」って考えている職員が多いようなんです。だけれど、連絡帳や写真の掲示だけでは、子どもの育ちや保育者の願いは伝わらない。逆におたよりだけでも難しい。この本はそれを伝える方法が、ブログまで含めてさまざま取り上げてありました。そしてそれらの方法で、「より効果的に保護者との信頼関係を深めるように」という視点で、情報発信のヒントが書かれていたと思います。

袖山 ●僕は、子どもの魅力や育ちだけでなく、これからは「保育そのものの魅力も伝えていこう」というメッセージをこの本から受け取りました。今は園が保護者から「選ばれる」時代でしょうか？ だからタイトルにあるように「保育が見える」ことが大事になってくる。時代に合わせて、情報のあり方も変わらないとだめなんだと。

清水 ●おたよりは豊富な実例が挙げられていますが、イラストや写真を使っているものが多かったですよ。

袖山 ●視覚情報を入れるというのも時代の反映でしょう。写真の掲載は制約のある園もありますが、写真掲載によって保護者との関係にいい影響があったという感想も載っていました。これからはますます視覚情報が求められて、メディア機器のスキルアップは、保育現場でも必要になると思う。

清水 ●「作成時間の短縮」の項で提案されていたように、効率を考えればやっぱり「パソコン」なんですよね(笑)。パソコンなら、連絡帳に書いた内容をおたよりに転用するのも簡単だし。ただ、実例を見ると、まだまだ手書きが主流という印象です。

袖山 ●まず技術習得の時間を確保しないと、ですね。勤務先でも園に合った形で、徐々に新しい方法を取り入れられたら———と思いました。